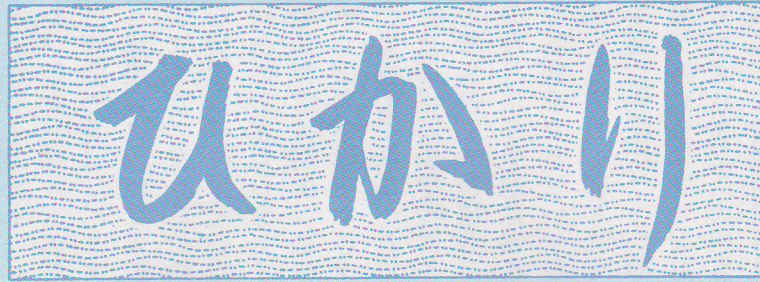


No. 93

2014年 (平成26年)
7月1日

発行
浄土真宗本願寺派
和歌山教区日高組
責任者
片桐 淨映



おもに
重荷せおうて
やまが
山坂すれど
ご恩おもえば
苦にならず

みよこころん
妙好人
むつれしま
六連島のお軽
かる



日高組仏教婦人会連盟物故者追悼法要

阿彌陀經に聞く

煩惱濁とは、貪り、怒り、愚かさなど煩惱が燃えさかり、悪徳がはびこり、人間がそのためにますますあさましくなることです。衆生濁とは、衆生の資質が低下することで、人間が悪くなり、人間性が墮落することによって社会全体が乱れることです。命濁とは衆生の寿命が短くなることで、煩惱や邪見のためにいのちを書い、若死にすることです。インスタント食品を食べ続けたり、不規則な生活を続けたらしていると、栄養のバランスが崩れて、長生きできないかもしれません。「五濁増のしるしにはこの世の道俗ごとく外儀は仏教のすがたにて内心外道を帰敬せり」と親鸞聖人は嘆かれました。この世は乱れ僧侶も門徒も外見は仏教のかたちをしているが、中身は仏教にそむいているというご指摘があります。浄土真宗でありながら、迷信にふりまわされている人を、指をくわえてみている私自身はじめることでもあります。

いじめによる小・中学生の自殺、老人の孤独死、凶悪な強盗殺人事件、交通事故、火災なども後を絶ちません。何か混沌とした世相ですが、このような現象は、今に始まったことではなく、形こそ変われいつの時代にもあったことでしょうか、「いのちと人権」を無視した予想もしないいろいろな事件が多すぎます。

(永原智行)

それぞれの思い

二人の娘さんを残しお浄土に生まれなお母さんがいました。彼女は四十半ばで末期の癌を患われていました。彼女が病院に入院する一年前の夏には、ご家族で私達家族に会いに来て下さいました。久しぶりの元気な笑顔と声に、その方が癌であるなど思いもしませんでした。入院中は他の方々に心配や迷惑をかけまいとご家族で看病をされていました。当時小学校四年生と二年生の二人の娘さんも自分なりに一生懸命お母さんの看病をされていました。彼女自身も苦しくて辛くて毎日が不安との戦いであったに違いありません。それよりも二人の娘さんを残してこの世を去ることが何より苦しいことだったのではないかと思います。その後、彼女はこの世で子供の成長を見届けられないまま命を終えました。彼女の葬儀は、近所の同じ宗派のお寺さんで行われ、私も同

席しお勤めをさせて頂きました。お通夜から還骨までの式の間、娘さん達はきちんと座られていました。その姿に、私は胸が締めつけられる思いでした。還骨式も終り親戚の方々が帰って行く中でした。亡くなった彼女のお母さんが私に話しかけてくれました。「この子は子供達を残して死ぬな、最後の最後まで生きよう」ともがいて必死に頑張っていました」と言葉をつまらさされました。お母さんも孫を残して娘の死を思うとどんなに不便で代ってやりたかったでしょう。子供さんの事はかり気にして、おばあさんの悲しさに思い至っていませんでした。慰めの言葉もなく、ただ領くことしか出来ませんでした。歎異抄第四条の一節に「今生に、いかにいとほし不便とおもふとも、存知のごとくたすけがたければ、この慈悲始終なし。しかれば、念仏申すのみぞ、すゑとほりたる大慈悲心にて候ふべきと云々」。意味は、この世に生まれてどんなに

気の毒だ、かわいそうだと思っても思い通りに助けることはできないから、わが力によって、この世で人々を救おうと願う慈悲（苦を抜き樂を与える）は中途半端なものしかありません。だからこそ阿弥陀さまの本願を信じ念仏申すことだけが最後まで徹底しうる真実の慈悲のころだといふべきでしょうと親鸞聖人は仰せられました。人間の慈悲には限界があります。自らの心をも閉ざしてしまう時もあります。

そんな時、私の心の闇を破り同感同感の思いとなつて心寄りそって下さる仏さまがいます。その仏さまは阿弥陀さまです。阿弥陀さまはなほあみだぶつの声の仏さまとなつて私の胸に至り届いてはたらいて下さっています。

このご縁に出遇つてなお「なほあみだぶつ」と阿弥陀さま自身をお聴かせ下さる思いが深くなりました。お念仏が聴えて参ります。
（荻野益次）

法悦クイズ

次の作法で正しいのはどれでしょう？
1～3の中から一つ選んで番号を書いてください。

1. お経の本は、畳に直接置かない。
2. お茶、お水は毎日供える。
3. お供物のお下がりは、食わずに捨てる。

92号の正解は、「親鸞聖人」でした。
正解者の中から、次の方に粗品を進呈いたします。

由良町 中 美幸様	由良町 中崎工三コ様
由良町 小林 直子様	由良町 濱崎五十鈴様
由良町 岩崎 信子様	由良町 新田美佐子様
由良町 畑中 靖子様	由良町 久保千代子様
御坊市 塩田 廣一様	由良町 濱上 弘様

官製ハガキにクイズの答え、住所、氏名、年齢、電話番号、所属寺、ご感想・ご意見等を明記の上、下記までお送りください。

〒649-1223
日高郡日高町小浦195
円行寺内 日高組事務所

※抽選で10名の方に粗品を進呈いたします。

※締め切り日
平成26年9月20日(必着)

※発表は次号

『子どもの声が 聞こえるお寺に』

少年連盟のスローガンを考える機会を頂いたのは定年退職した年、教務所長より、ご本山で開催される、キッズサンガのアドバイザー研修を受講してはと誘われ、受講したのがご縁であります。キッズサンガの理念とねがいは「ご縁のある大人たちが、すべての子どもと接点を持ち、子どもととも、阿弥陀さまのご縁に遇っていかうとする運動」であります。教区少年連盟に於いても、夏の児童念仏奉仕団・冬のキッズサンガ子ども報恩講を開催しています。例年奉仕団参加者はバス2台90名前後でしたが、昨年は133名の申込みに嬉しい悲鳴をあげま



念仏奉仕団ふき掃除



子ども報恩講 献灯の1コマ

した。また、キッズサンガ子ども報恩講には連盟関係者だけでなく、仏教婦人会・門徒推進委員会・壮年会・総代会等の協力を得て、参加者263名(児童178名・スタッフ85名)が鷺森別院本堂にて一堂に会し阿弥陀さまのご縁に遇うことが出来ました。

少子高齢化が進む日高組においては各寺院に於いてキッズサンガを開催することは困難であります。しかしながら、日高組で開催されるサマーキャンプや教区の行事に子どもたちに参加して頂くことが念仏相続『念仏の声を子や孫に』を実践していくことではないでしょうか。ご本山では「子ども・若者ご縁づくり推進室」が新たに設置され次代をになう人々の育成に重点がおかれまして。

(藤本使朗)

門徒心得

「葬儀の場面から」

「即得往生」この世の命が尽きる時、お浄土に往生生まれさせていただけるのです。

死者の「霊」を清めない自分「祟り」が有るとすれば、あなたもいつか家族や親族、ご縁の方々「祟り」を与える身となるかもしれませぬよ。

お知り合いの方のお通夜、葬儀に参列されることもあるかと思いますが、お通夜ではお勤めの後にご住職から故人を偲んでのご法話があるかと思えます。

一般の焼香のご案内が始まると、順次にご焼香し、早々に式場を後にされる参列者が居られますが、何の思いで参列されたのでしょうか。

葬儀は故人とのこの世の最後のお別れです。ご縁があつて参列されたことでしょうか、遺族への顔見に終わらず、式が終わるまで臨席し、故人を偲びつつ、無常の命に思いをはせ、ご法話を聴聞する仏縁とさせていただきますしう。

(鈴木悟峰)

読者の声

※92号のひかりで日高組総代会の研修テーマを読ませていただき、今は寺離れの傾向があるので私は思っております。総代さんも昔のように自分達でお寺を守らなければとわかつてくれている人が少ないように思います。十二年間総代をさせていただき勉強できて幸せでした。それぞれのお寺で皆様をお寺に近づける取り組みをやつていかなければ?

※「ひかり」の今月に書かれている「いのちの日」他、読ませて頂き勉強になりました。祥月命日とはわかつていましたが、「祥」をどういう字を書くのかも知りませんでしたし、「中陰が三ヶ月にまたがる」ということも気になっていましたので何となくわかりました。

※クイズに出して「はじめての親鸞さま」をいただき有り難うございました。小学六年生と中学二年生の孫に読んでほしいと思つて、春休みに由良へ帰ってきてくれると楽しみにしています。

※「はじめての親鸞さま」をいただき有り難うございました。読ませて頂きました。やさしい気持ちになれそうな気がします。当たり前ではない命を大切に生きたいと思えます。有り難うございました。

※「ひかり」は理解しやすい言葉で書かれているので納得できてうれしいです。これからも色々な事を知りたいです。

※応募できる、させて頂く今のお陰様を感謝します。

※「ひかり」を楽しみに読ませてもらっています。特に「門徒心得」の欄を勉強させてもらっています。※いつもありがたく拝読しています。

日高組寺院めぐり

専福寺(由良町江ノ駒)

第十二代住職

菅原 吉人

当寺は、寛永元年(一六二四)十二月、僧明道(導)が本願寺より木仏本尊阿弥陀如来を下附されたのが真宗寺院としての始まりであるといわれる。詳しい資料は残っていないが、昭和五十九年三月本堂新築の際、旧本堂から安永六年(一七

七八)に二代住職善応により本堂再建が行われ、寛政十一年(一八〇〇)の三代住職順浄の時に完成するという歴史を記された板が発見された。

墓地には、応永十三年(一四〇六)建立の宝きょう印塔や五輪塔、板碑が残存しているところから、当初は真言宗あるいは禅宗であったであろうと思われる。



専福寺

日高組通信

☆行事報告

・平成二十五年日高組住職・寺族・門徒総代・責任役員物故者追悼法要並びに日高組組会が開催された。

三月二十九日(土)日高町志賀妙願寺において、標記追悼法要並びに組会が開催されました。

平成二十五年年度の組会に先立ち、日高組門徒総代・責任役員三名の物故者追悼法要が営まれ、遺族や組会議員三十五名が参拝し法要後は由良町里蓮専寺の岩崎法明住職より法話をいただきました。

平成二十五年度の組会では事業報告並びに会計決算報告、監査報告がなされ、質疑応答の中では、僧侶研修会で「浄土真宗の葬儀のあり方」について研修報告がなされたが、もつと門信徒に対して「葬儀のあり方」を指導してほしいという意見や、仏教壮年会の活動実態に対して「寺院単位」での活動を積極的に住職がリーダーシップを取って奨めてほしいといった意見が

出され、執行部だけでなく、組内全体で協議してゆくことを確認しました。

続いて、二十六年事業計画、予算審議がなされ、承認可決されました。

最後に、小谷勝男氏逝去に伴う、門徒教区会議員補欠選挙がなされ、妙願寺門徒川瀬貞夫氏を選出されました。任期は残任期間(平成二十七年三月三十一日)までとなっています。

・日高組総代会総会・研修会
四月五日(土)由良町大引浄明寺に於いて、平成二十五年事業報告・会計報告、二十六年事業計画・予算について審議しました。

続いて任期満了に伴う役員の改選が行われ、会長には、宝國寺門徒田端美津雄氏を選出されました。

最後に、善宗寺住職より「葬儀について」と題して講話がなされ、常々疑問に思っている事柄について、明快にお話をいただきました。

・日高組仏教婦人会連盟物故者追悼法要・平成二十六年日高組仏教婦人会連盟総会
四月二十九日(祝・火)午後一時から由良町里蓮専寺にて、標記追悼法要・総会を行いました。二十五年年度の物故者は三十三名。法話のご講師は、志賀善宗寺 住職 鈴木悟峰師でした。

その後、平成二十五年事業報告・会計報告、次年度の事業(案)・予算(案)が審議されました。

☆行事予定

・日高組こどものつどい「キッズサンガ」

日高組こどものつどい「キッズサンガ」を八月二十三日(土)に開催致します。詳細が決まり次第、寺院を通じてご案内いたします。



日高組ホームページ QRコード

